

11月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和7年11月末現在〕

令和7年12月19日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「収益状況」のいずれも前年同月比は悪化し、前月比では「景況」、「収益状況」は改善したが、「売上高」は悪化した。

業種別でみると、「景況」の前年同月比は製造業は悪化し、非製造業は変化がなかったが、前月比は製造業、非製造業ともに改善した。「売上高」の前年同月比は製造業、非製造業はともに悪化し、前月比も製造業、非製造業ともに悪化した。「収益状況」の前年同月比は製造業、非製造業ともに悪化し、前月比も製造業、非製造業ともに改善した。

人件費上昇分を販売価格に転嫁できていないなど、人件費上昇に関する意見が多くみられた。

景況DI

全体では、前月比 20.4ポイント改善の▲8.2ポイント、製造業は、前月比 11.3ポイント改善の▲16.7ポイント、非製造業は、前月比 29.2ポイント改善の0.0ポイントとなった。

売上高DI

全体では、前月比 8.3ポイント悪化の▲8.3ポイント、製造業は、前月比 4.3ポイント悪化の▲8.3ポイント、非製造業は、前月比 12.5ポイント悪化の▲8.3ポイントとなった。

収益状況DI

全体では、前月比 3.6ポイント改善の▲25.0ポイント、製造業は、前月比 3.0ポイント改善の▲25.0ポイント、非製造業は、4.2ポイント改善の▲25.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するため、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

NO.	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
1	食料品	学校給食パン	10月12日より本県最低賃金が改定されたことによる対応に追われた組合員が多くおり、さらなるコスト上昇に悲鳴を上げている状況である。慢性化した人手不足は賃金上昇だけでは解決しないため、学校給食パンの安定供給には組合への支援や地域連携が必要である。
4		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県10月の清酒課税移出数量は、対前年同月比97.5%であった。当月は大吟醸酒が好調であったが、純米酒と普通酒が落ち込み、特に酒造の個性が一番出る純米酒が先月に続いて落ち込んでいる。 ○県内当業界について 伝統と権威のある第97回関東信越国税局酒類鑑評会にて、茨城県の酒造としては27年ぶりに第1位を受賞。 全体的にみると茨城からの入賞は以前と比べると少ない結果となり、茨城の酒造において技術力の向上を目的にコンクールで上位入賞を目指す蔵元と入賞より独自の酒造りでファンを増やす蔵元に分化してきている。 関東信越国税局管内には新潟県や長野県の有力な酒造があり、東北の仙台国税局鑑評会と同等の激戦コンクールとなっている。
5		納豆	大手メーカーの値上げが小売価格に反映されている店とそうでない店がある。 価格を引き上げるのを躊躇する店があり、値上げによる消費者の商品購入数の減少、小売店の取扱量の減少が懸念される。人手不足により工場稼働率が低下している。
6		菓子	政権交代により経済対策が実行されたことにより、今までのような閉塞感はなくなり、人の流れが活発になってきたように感じている。
10	製造業	織維工業	外衣シャツ 縫製業の経営環境は良い状況ではない
11	木材・木材製品	製材	国産材製品の荷動き、価格ともに横ばいで推移した。 外材については入荷量が少なく、価格は高値安定で推移した。 原木価格については、スギが高値安定で推移し、ヒノキは安値安定で推移している。
12		県北地区プレカット	月間加工坪数目標(1,000坪)は60%達成であった。 12月の加工予定は、初旬から中旬に集中し、25棟を予定している。 木材費は、高値安定を維持している。
14	印刷	総合印刷	組合員は人手不足になっているなか、印刷価格の値上げを行っていないので、従業員は給料が変わらないまま、業務量が増える悪循環となっている状況である。
17	窯業・土石製品	コンクリート製品	組合の以下製品の単価を12月からそれぞれ10%上昇する。 長尺U字溝 KUS(歩道用)・KUR(車道用)、同蓋 ISL(歩道用) IRL(車道用)
18		陶磁器	秋の陶器市「秋市」陶とくらし」が終了し、来春の「陶炎祭」に向けた準備がスタートした。 秋は笠間市全体が賑わっていたので、売上が上がっている。
19	鉄鋼・金属	鉄鋼	全体的な受注量は対前年比で同等であり、建築関連部品・機械部品・自動車部品関連部品も対前月比で受注量は大きく変わらない結果となった。 原材料・購入している資材、工業薬品についても値上がりした後、高値の状況である。
20	製造業	一般機器	生産用機械 対象7組合員(製造会社)の売上状況は、増加(対前年同月比)6社、減少(対前年同月比)1社となった。全体増減率は147%となった。 団地全体の売上高は、主要取引先からの受注が増加したことから7ヶ月連続で前年同月比を上回っている。団地全体の従業員は、売上高が増加してきている企業に派遣社員が増加していることにより、前年同月とほぼ同じ数まで回復した。
22	電気機器	重電	最低賃金が大幅に上昇し、売価に反映するためには半年以上の交渉が必要である、以前は1時間当たり1~2円の変動だったが、ここ数年は大幅に上昇しており、対応が難しい。 最低というとインパクトが強すぎるので、最低賃金という名称を「基準賃金」などにしてほしい。
23	輸送用機器	県北地区自動車部品	一時期の受注不振は改善傾向にあるが、先行きは予断を許さない状況である。

情報連絡一覧票

NO.	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
26	卸売業	生鮮魚介	精算所の取扱高は前年同月比で微減となった。秋鮭などの不漁の影響で入荷が少なく高値で推移している。その他イクラなどの商品も販売単価が上昇しているため、扱い数量が大幅に減少しているように感じられる。今後は、年末商材等の取扱が増えることに期待したい。
27		米麦	高値で集荷した令和7年度産の米の契約・販売が進んでおらず、さらには米価下落により厳しい状況となっている。
28		袋セメント	袋セメントの11月度出荷数量は41千袋、前年同月比139.2%の実績となった。袋セメント業界を取り巻く環境は変化なく厳しい状況が続いているが、12月1日から袋セメント1袋当たり50円（1トン当たり2,000円）の値上げが決定したことから駆込み需要が発生し、対前年比で出荷数量は大幅な増加となった。
29	非 製 造 業	鹿行地区共同店舗	売上高は108.92%（対前年同月比）と増加した。来客数は96.33%（対前年同月比）と減少した。
30		県南地区共同店舗	ショッピングセンター全体として11月の売上高（対前年同月比）は101.27%と微増となった。
32		燃料	国の支援策により価格は抑えられているものの、11月25日時点の茨城県のレギュラーガソリンの平均価格は165.3円と前年同月より5.2円安くなっている。11月13日に暫定税率廃止に伴う補助金上限が5円増加したことが要因と考えられる。ガソリン税の「暫定税率」（正式には「特例税率」）を年内に廃止することで合意し、11月27日に5円、12月11日に5.1円増加し暫定率25.1円分と同額の補助金を出し、12月31日に暫定税率廃止となる。暫定税率廃止については段階的に補助金が増額され小売価格が値下がりしていくものの、消費者の買い控えや給油客等の殺到等のSS店頭でのトラブルや収入が減る分の経営上の問題等が懸念される。また、軽油に係る暫定税率分は地方税であり、茨城県の収入にも大きく影響があり、当組合運営にも支障がでてくる大きな問題であり、国の動向に注視していく必要がある。
35		スポーツ用品	昨年の状況と変化はない
36		中古自動車	11月の販売台数は、対前年同月比で74.26%、販売価格は対前年同月比で91.09%と非常に厳しい状況にある。新車市場の販売台数、在庫数が減少しており中古車市場も連動して在庫不足が顕著となっている。第2四半期までは好調だった大手中古車販売店の売れ行きが落ち着いた影響が大きい。
37		野菜・果実	11月の野菜果実の取扱高（対前年比）は94.5%と減少となった。過去5年間の平均と比較すると113.5%と増加となった。前年の売上が高かったため、対前年比では100%を切ったものの11月としては非常に高い水準の実績となった。前年同様、じゃがいも、トマトをはじめ多くの品目で単価高となり、県内で基腐病が確認されたため、今後さつまいもの販売にどのような影響がでてくるか注視していく必要がある。
38	商店街	水戸	厳しい状況が続いているが、年末に近づいたことにより、人通りが増加しているなどの変化がみられる。

情報連絡一覧票

NO.	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
41	非 製 造 業	自動車整備	組合員の事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）は普通車・軽自動車ともに減少となった。（対前年同月比） オイル等の油脂類が高騰しており、収益状況は悪化している。
42		サービス業 旅館、ホテル	<p>【水戸市】 11月はスポーツ大会による団体利用（社会人東日本野球大会・茨城県リトルシニア大会など）が一定数見られた一方で、忘年会需要は前年より低下し、参加者も減少傾向にある。</p> <p>【大洗町】 11月15日～16日に開催された「大洗あんこう祭り」が2日間で約15万人を動員し、地域全体の宿泊需要を大きく押し上げた。インバウンドについては、FIT（個人旅行）が全体の約8%を占めるものの、団体インバウンドは見られず、個人客が中心となった。</p> <p>【笠間市】 笠間客層はビジネス利用とゴルフ等のスポーツ大会による利用が中心であり、安定した需要が見られた一方、インバウンドは10月以降減少傾向にあり、海外からの宿泊需要は減少傾向で推移している。</p> <p>【常陸大宮市】 紅葉の行楽シーズンと連休が重なったことにより、観光目的の宿泊は例年並みの動きとなった。週末の宿泊単価を昨年より引き上げたことにより売上自体は増加したが、物価高騰の補填にとどまる状況となっている。また、当該エリアではインバウンドの宿泊はほとんど見られず、国内観光客が中心となっている。</p> <p>【つくば市】 11月は土浦花火大会、つくばマラソン、筑波大学推薦入試といった大型イベントが集中したことから、宿泊単価を高く設定しても販売が進み、例年同様にイベント日の単価は年々上昇傾向にある。一方で、団体客は減少傾向が続いているが、インバウンドについても国際情勢の影響から落ち着きつつあり、全体として減少傾向となっている。</p>
43		ビル管理	売上高（対前年比）は微増となった。 最低賃金改定に合わせて見直しをした支払給与負担が増加した影響を払拭することが喫緊の課題となっている。
44		建設業	公共工事（県・市）の予算減少により発注予定期数及び金額が減少しているため、業績の見通しが非常に厳しくなっている。
49		運輸業 軽貨物自動車	11月の組合員数は、増減なし（対前年同月比）で97名、車両台数は増減なし（対前年同月比）で125台となった。運送売上高については、対前年同月比103.4%の増加となった。 全国赤帽自動車運送協同組合連合会の11月の組合員数は22名減（対前年同月比）の5,772名、車両台数は30台減（対前年同月比）の6,907台となっている。
50		一般貨物自動車	主要顧客の発送物量はほぼ前年並みとなっている。 燃料価格については政府補助金の増額により少しずつ下がってきているが、トラック価格や整備費等物価高による経費増により収益は厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	清酒	昨年からの急激な米価格の高騰により加工業者は苦境に陥っているため、行政には米価の歴史的高騰により経営が圧迫されている酒造への原料米購入資金の補助金の検討をお願いしたい。
窯業・土石製品	コンクリート製品	・公共工事業（土木）の拡充 ・補正予算大幅増加
電気機器	重電	業種別特定最低賃金を廃止にしてほしい 最低賃金が10月になってから業種別最低賃金特定をしていないのは遅い
小売業	燃料	・揮発油に課税している二重課税の廃止 ・燃料油補助に対する消費者に対する十分な説明、補助事業の今後の見通しの事業者向けの説明 ・物価上昇、円安への対策 ・SS事業者への暫定税率廃止に伴う収益悪化に対する金融的支援 ・暫定税率分の軽油に係る地方税への適切な対応
サービス業	旅館・ホテル	・宴会・忘年会需要回復に向けた公的支援の実施 ・物価高騰に伴う運営コストへの補助継続 ・経年劣化施設への助成・補助制度の充実 ・インバウンド対応に向けた同線整備支援 ・スポーツ退会・大型イベント開催への補助強化 ・宿泊施設の固定資産税への配慮 ・中小企業の納税負担軽減

月次景況調査 11月のD I (前年同月比)

項目	全体			製造業			非製造業		
	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比
景況	▲ 8.3	▲ 28.6	20.2	▲ 17.4	▲ 28.0	10.6	0.0	▲ 29.2	29.2
売上高	▲ 8.5	0.0	▲ 8.5	▲ 8.7	▲ 4.0	▲ 4.7	▲ 8.3	4.2	▲ 12.5
収益状況	▲ 25.5	▲ 28.6	3.0	▲ 26.1	▲ 28.0	1.9	▲ 25.0	▲ 29.2	4.2
販売価格	12.8	14.3	▲ 1.5	4.3	4.0	0.3	20.8	25.0	▲ 4.2
取引条件	▲ 10.6	▲ 10.2	▲ 0.4	0.0	▲ 12.0	12.0	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 12.5

中小企業月次景況調査(令和7年11月)DI値(前年同月比)

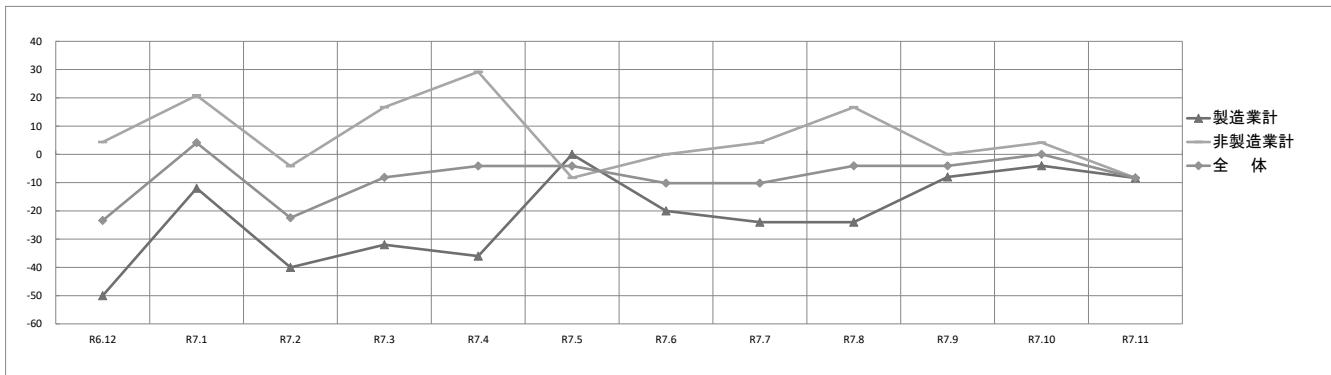
業界	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI		(内訳)		DI		(内訳)		DI		(内訳)		DI		(内訳)		DI		(内訳)		DI		(内訳)		DI		(内訳)		DI		(内訳)															
	増加	不变	減少	業界数	増加	不变	減少	業界数	上昇	不变	悪化	業界数	好転	不变	悪化	業界数	好転	不变	悪化	業界数	好転	不变	悪化	業界数	上昇	不变	悪化	業界数	好転	不变	悪化	業界数														
製造業	食料品	0.0	2	3	2	7	0.0	0	7	0	7	57.1	4	3	0	7	14.3	1	6	0	7	△ 14.3	0	6	1	7	△ 14.3	0	5	2	7	△ 14.3	0	6	1	7	△ 14.3	1	4	2	7					
	織織工業	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					
	木材・木製品	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2					
	紙・紙加工品	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0	#DIV/0!	0	0	0	0					
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1					
	建築・土石製品	0.0	1	2	1	4	△ 25.0	0	3	1	4	0.0	0	4	0	4	25.0	1	3	0	4	△ 25.0	1	1	2	4	0.0	0	4	0	4	0.0	0	3	1	4	0.0	1	2	1	4					
	鉄鋼・金属	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1					
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1					
	電気機器	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2					
	輸送機器	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
非製造業	製造業計	△ 8.7	4	13	6	23	△ 13.0	0	20	3	23	4.3	4	16	3	23	0.0	2	19	2	23	△ 26.1	2	13	8	23	△ 13.0	0	20	3	23	△ 17.4	0	19	4	23	△ 8.7	1	19	3	23	△ 17.4	2	15	6	23
	卸売業	△ 33.3	1	0	2	3	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 100.0	0	0	3	3										
	小売業(商店街含む)	△ 9.1	3	4	4	11	△ 18.2	0	9	2	11	27.3	5	4	2	11	△ 27.3	0	8	3	11	△ 36.4	0	7	4	11	△ 18.2	0	9	2	11	0.0	0	11	0	11	△ 36.4	0	7	4	11					
	サービス業	0.0	1	1	1	3						33.3	1	2	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3										
	建設業	△ 20.0	0	4	1	5						0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 33.3	0	2	1	3										
	運輸業	50.0	1	1	0	2						50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	4	1	5	△ 20.0	0	4	1	5										
	非製造業計	△ 8.3	6	10	8	24	△ 14.3	1	10	3	14	20.8	8	13	3	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 25.0	0	18	6	24	△ 16.7	0	20	4	24	△ 12.5	0	21	3	24	0.0	0	2	0	25					
全 体	△ 8.5	10	23	14	47	△ 13.5	1	30	6	37	12.8	12	29	6	47	△ 10.6	2	38	7	47	△ 25.5	2	31	14	47	△ 14.9	0	40	7	47	△ 17.4	0	19	4	23	△ 10.6	1	40	6	47	△ 8.3	2	17	6	48	

D I 値推移表 (R6.11月 ~ R7.10月期)

『売上高の推移』

前年同月比	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11
食料品製造業	▲ 42.9	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 52.9	▲ 17.6	▲ 47.1	▲ 35.3	▲ 35.2	5.8	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 5.8	0.0	▲ 12.5
製造業計	▲ 50.0	▲ 12.0	▲ 40.0	▲ 32.0	▲ 36.0	0.0	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 8.0	▲ 4.0	▲ 8.3
卸売業	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 33.3	66.7	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	9.1	45.5	9.1	9.1	54.5	▲ 27.3	▲ 9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	▲ 9.1
サービス業	▲ 50.0	33.3	33.3	66.7	100.0	66.7	66.7	33.3	66.7	▲ 33.3	33.3	0.0
建設業	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	0.0	0.0	▲ 50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0
非製造業計	4.3	20.8	▲ 4.2	16.7	29.2	▲ 8.3	0.0	4.2	16.7	0.0	4.2	▲ 8.3
全 体	▲ 23.4	4.1	▲ 22.4	▲ 8.2	▲ 4.1	▲ 4.1	▲ 10.2	▲ 10.2	▲ 4.1	▲ 4.1	0.0	▲ 8.3

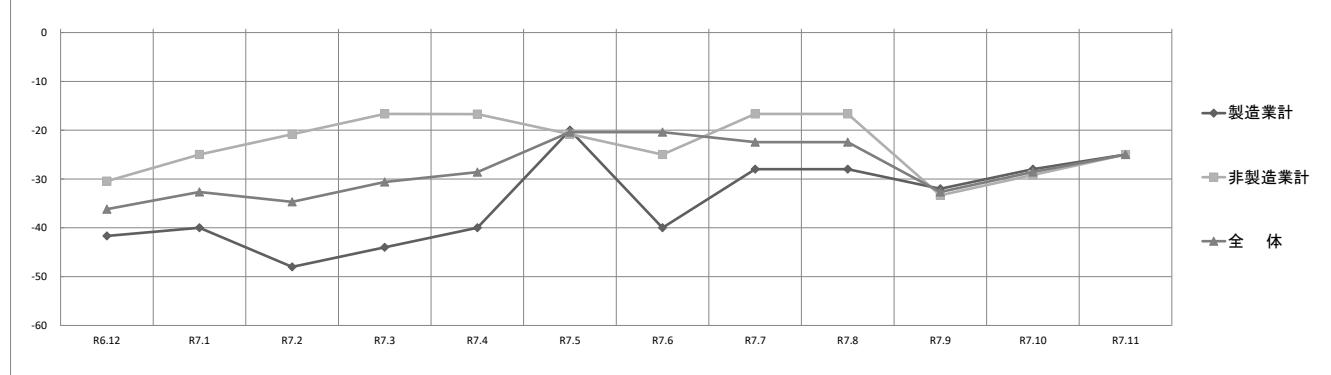
『売上高推移グラフ』



『収益の推移』

前年同月比	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11
食料品製造業	▲ 42.9	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 14.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 41.2	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 47.1	▲ 29.4	▲ 11.7	▲ 41.1	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 25.0
製造業計	▲ 41.7	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 44.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 28.0	▲ 25.0
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	#####	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 9.1	9.1	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 36.4
サービス業	▲ 50.0	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 30.4	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 25.0
全 体	▲ 36.2	▲ 32.7	▲ 34.7	▲ 30.6	▲ 28.6	▲ 20.4	▲ 20.4	▲ 22.4	▲ 22.4	▲ 32.7	▲ 28.6	▲ 25.0

『収益推移グラフ』

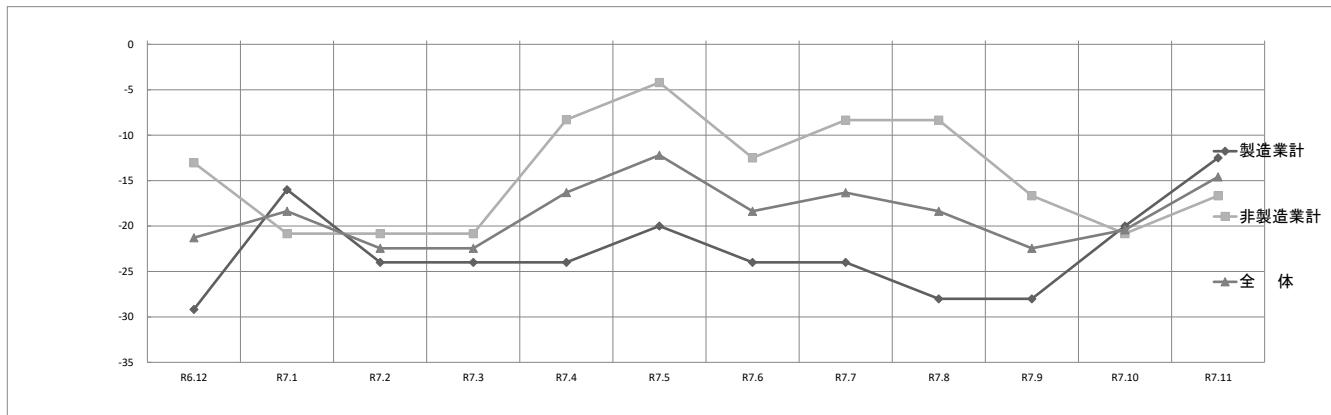


D I 値推移表 (R6.11月 ~ R7.10月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11
食料品製造業	▲ 42.9	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 14.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 12.5
製造業計	▲ 29.2	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 12.5
卸売業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 9.1	0.0	▲ 9.1	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 18.2	▲ 18.2
サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 13.0	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 4.2	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 16.7
全 体	▲ 21.3	▲ 18.4	▲ 22.4	▲ 22.4	▲ 16.3	▲ 12.2	▲ 18.4	▲ 16.3	▲ 18.4	▲ 22.4	▲ 20.4	▲ 14.6

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11
食料品製造業	▲ 28.6	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 14.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.3	▲ 29.4	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 29.4	▲ 5.8	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 18.7
製造業計	▲ 33.3	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 36.0	▲ 16.0	▲ 32.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 32.0	▲ 28.0	▲ 16.7
卸売業	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 9.1	0.0	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 36.4
サービス業	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 33.3
運輸業	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0
非製造業計	▲ 30.4	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 20.4	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 29.2	0.0
全 体	▲ 31.9	▲ 28.6	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 32.7	▲ 30.6	▲ 28.6	▲ 8.2

《景況推移グラフ》

